

2009年度 第1四半期 決算発表

富士フイルム ホールディングス株式会社
2009年7月31日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

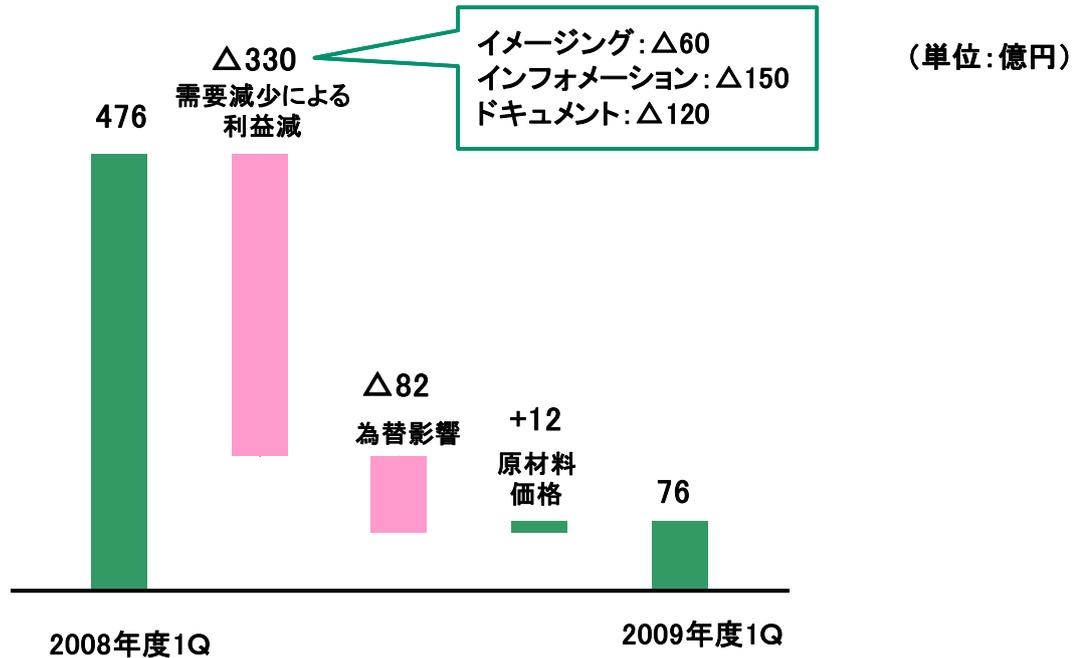
2009年度第1四半期連結業績

世界経済同時不況の影響を受け、引き続き厳しい事業環境により、減収減益

(単位:億円)

	2008年度 第1四半期		2009年度 第1四半期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	6,537	100.0%	5,024	-1,513	-23.1
構造改革費用前 営業利益	7.3%	476	1.5%	76	-400	-84.1
構造改革費用		17		103	86	-
構造改革費用後 営業利益	7.0%	459	-0.5%	-27	-486	-
税金等調整前 四半期純利益	8.4%	550	0.2%	12	-538	-97.9
当社株主帰属 四半期純利益	4.9%	319	-0.1%	-7	-326	-
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益		63.31円		-1.42円		-
為替 :米ドル		104円		97円		-7円
:ユーロ		163円		133円		-30円

■ 構造改革費用前営業利益増減要因 (対2008年度1Q)



構造改革の進捗

2009年度1Q 構造改革費用

(単位: 億円)

内容別内訳

設備等資産関連	31
人員関連	72
構造改革費用 計	103
構造改革効果	30

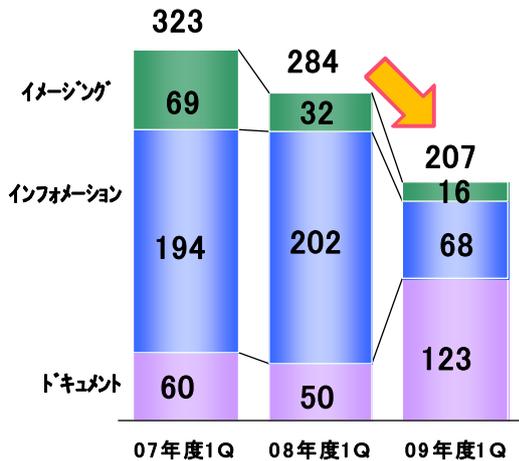
事業セグメント別内訳

イメージング	28
インフォメーション	32
ドキュメント	43
構造改革費用 計	103

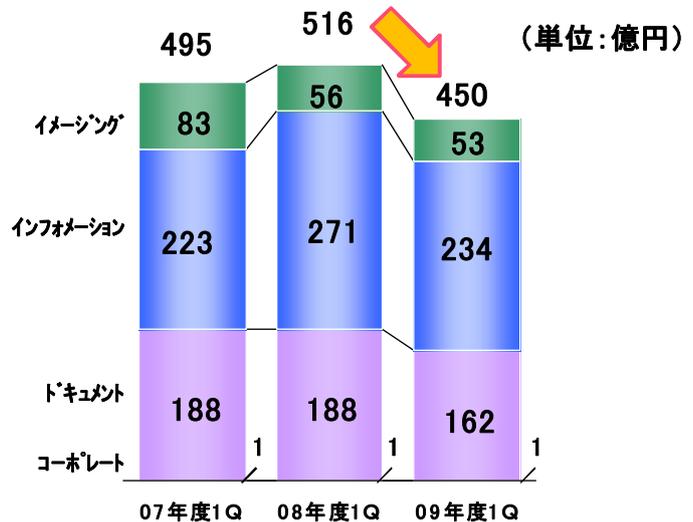
- **設備等資産関連**
オランダ工場カラーペーパー製造工程の一部停止等
- **人員関連**
ラボ統廃合等海外を中心とした人員削減に伴う退職費用

設備投資選別強化により設備投資・減価償却費は減少

■ 有形固定資産の設備投資額



■ 減価償却費

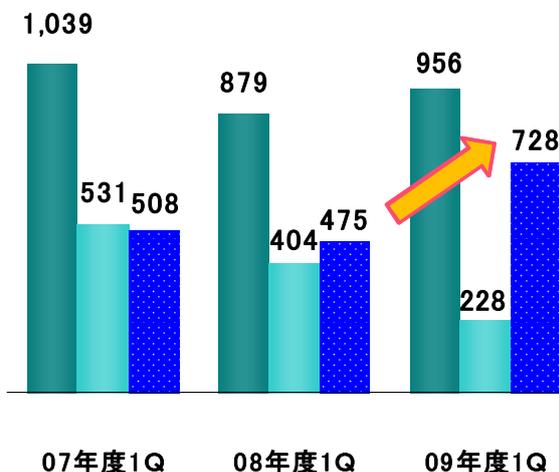


キャッシュフロー

厳しい事業環境のなか、設備投資の選択と
在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に改善

■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ フリーキャッシュフロー

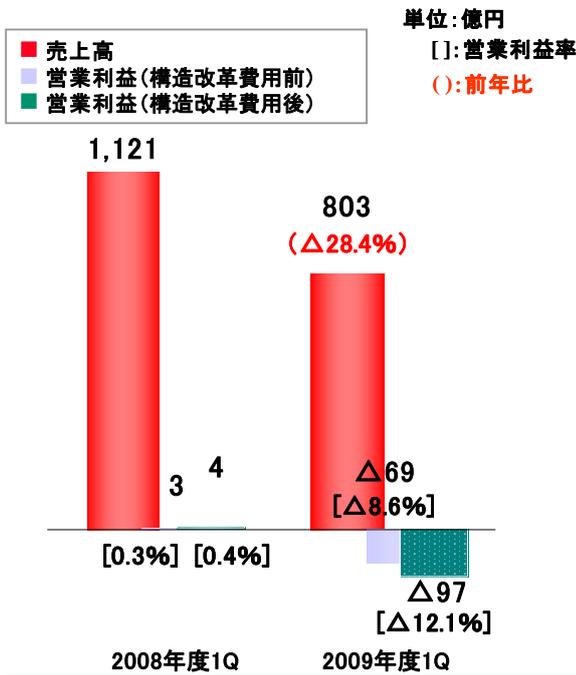
(単位: 億円)



キャッシュフロー		08年度1Q	09年度1Q
四半期純利益		350	-6
減価償却費		516	450
運転資本増減額		87	333
未払法人税等他負債の増加		95	162
その他		-169	17
営業活動によるCF		879	956
設備投資		-417	-197
有価証券・投資有価証券等の売却・購入		38	51
その他		-25	-82
投資活動によるCF		-404	-228
フリーキャッシュフロー		475	728

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益



売上高

803億円 (前年比 28.4%減)

- 需要減少によるカラーフィルムやデジタルミニラボの販売減に加え、デジタルカメラの競争激化により減収。
為替円高影響 △106億円

営業利益

構造改革費用前 △69億円
 構造改革費用後 △97億円
 (前年比共に赤字化)

- 売上の減少や為替の影響により、引き続き減益。

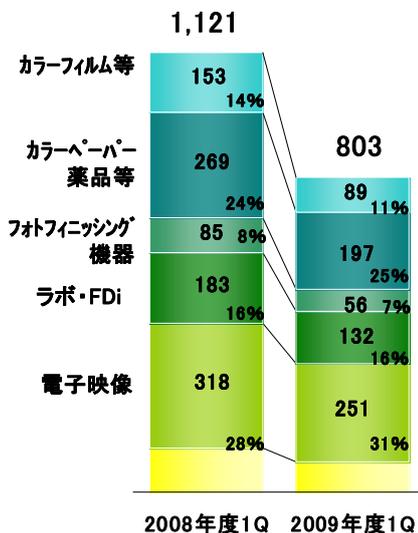
*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

イメージングソリューション

サブセグメント売上高

単位: 億円
 %: 売上構成比



カラーフィルム等

89億円 (前年比: 42%減)

- 市場縮小による売上減少が継続。

カラーペーパー・薬品等

197億円 (前年比: 27%減)

- フォトブックやオンラインフォトサービスなどの付加価値プリントの販売促進施策を展開。

フォトフィニッシング機器

56億円 (前年比: 34%減)

- 「フロンティアドライミニラボDL430」などラインアップの拡充により拡販を推進。

電子映像

251億円 (前年比: 21%減)

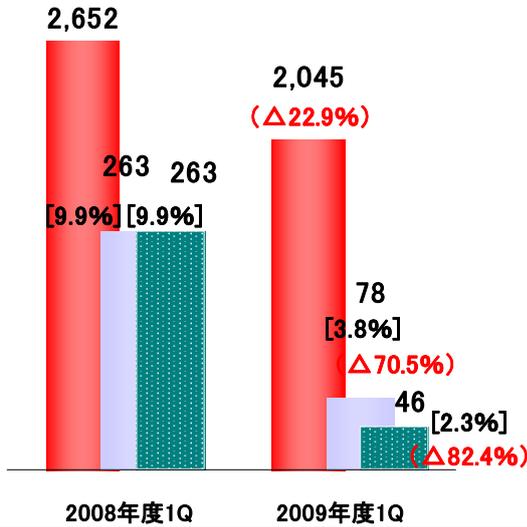
- 第1四半期のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで180万台。
- 国内では「FinePix F200EXR」、「FinePix Z300」等特長のある製品を展開し堅調。
- 為替の円高や価格競争激化により、売上が減少。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益

■ 売上高
 ■ 営業利益(構造改革費用前)
 ■ 営業利益(構造改革費用後)

単位:億円
 []:営業利益率
 ():前年比



売上高

2,045億円(前年比 22.9%減)

- フラットパネルディスプレイ材料の需要は急回復。グラフィックシステム事業や光学デバイス事業の売上が減少したことにより減収。
- 為替円高影響 △126億円

営業利益

構造改革費用前 78億円(前年比 70.5%減)
 構造改革費用後 46億円(前年比 82.4%減)

- 主要製品の販売数量の減少、為替の円高の影響。

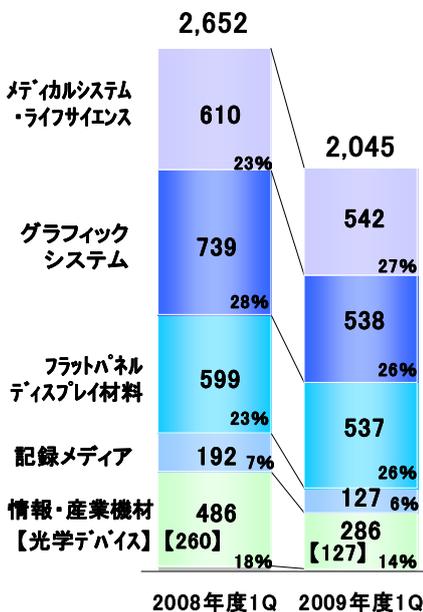
*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

インフォメーションソリューション FUJIFILM

サブセグメント売上高

単位:億円
 %:売上構成比



メディカルシステム・ライフサイエンス

542億円 (前年比: 11%減)

- 世界的な景気後退、及び国内における昨年の診療報酬改定の影響により、売上が減少。
- 小型FCR機器を軸に新興国市場での販売強化を推進中。
- 「SYNAPSE」等の医用画像情報ネットワークシステムの売上は堅調に推移。

グラフィックシステム

538億円 (前年比: 27%減)

- 円高、出版物の減少、新聞紙面削減等の影響により、印刷材料全般の売上が減少。
- デジタルプリンティング分野では、ワイドフォーマットインクジェットシステムの販売が堅調に推移。

フラットパネルディスプレイ材料

537億円 (前年比: 10%減)

- 中国政府の家電普及政策によるTV需要の増加などにより「フジタック」、「WVフィルム」の受注が回復基調。
- 09年7月に「WVフィルム」第9工場本格稼働。

記録メディア

127億円 (前年比: 34%減)

- 主力のデータメディアの最大の市場である米国市場の需要減少等により販売が低迷。

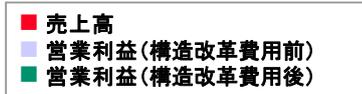
情報・産業機材

286億円 (前年比: 41%減)

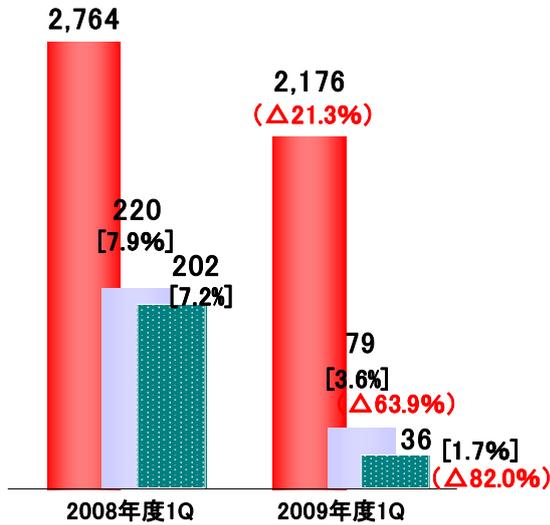
- 光学デバイス分野で、世界的な景気後退のため受注が引き続き厳しく、売上が減少。

■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益



単位: 億円
[]: 営業利益率
(): 前年比



売上高

2,176億円(前年比 21.3%減)

- 市場需要の低迷による販売の減少や為替変動によるマイナスインパクト等により減少
- 為替円高影響 $\Delta 109$ 億円

営業利益

構造改革費用前 79億円(前年比 63.9%減)
構造改革費用後 36億円(前年比 82.0%減)

- 販売直接費の管理強化と一般管理費の効率化に取り組んだものの、売上総利益の大幅な減少により減益

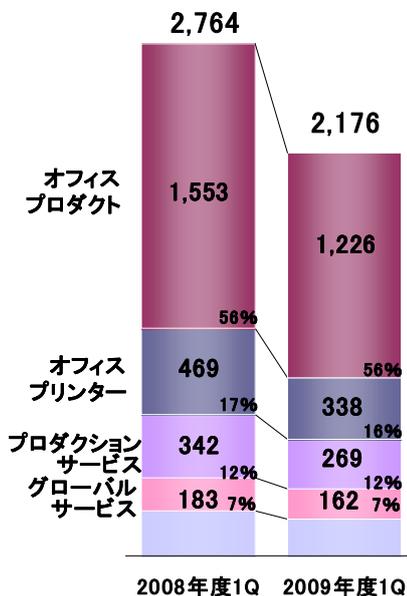
*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報

ドキュメントソリューション

サブセグメント売上高

単位: 億円
%: 売上構成比



オフィスプロダクト

1,226億円(前年比: 21%減)

- 国内は、景気悪化に伴う設備投資抑制の影響で販売台数が減少。また、企業の経費節減の影響によりアフタービジネスの売上も減少。
- アジア・オセアニア地域では、中国市場の販売台数が増加に転じる。米ゼロックス向け輸出は減少。

オフィスプリンター

338億円(前年比: 28%減)

- 国内では、総需要の減少により自社ブランド商品の販売台数、OEM向け出荷台数がともに減少。
- アジア・オセアニア地域は、中国市場での販売台数増加により全体で大きく増加。米ゼロックス向け輸出は、需要の急減により減少。

プロダクションサービス

269億円(前年比: 21%減)

- 国内、米ゼロックス向け輸出ともに、景気悪化に伴う需要低迷により販売台数が減少。
- アジア・オセアニア地域ではライトプロダクション・カラーシステムの販売が好調に推移し、販売台数が増加。

グローバルサービス

162億円(前年比: 11%減)

- マネージド・プリント・サービス等が伸長するも、急激な景気悪化の影響により、国内外で売上が減少。

2009年度業績予想

FUJIFILM

単位: 億円	2008年度 通期 実績		2009年度 通期 予想		対前年 増減 (%)
売上高:	100.0%	24,343	100.0%	23,000	-5.5
イメージング		4,104		3,500	-14.7
インフォメーション		9,461		9,500	+0.4
ドキュメント		10,778		10,000	-7.2
構造改革費用前 営業利益	2.9%	708	2.4%	550	-22.3
構造改革費用		335		1,450	-
構造改革費用後 営業利益	1.5%	373	-3.9%	-900	-
税金等調整前 四半期純利益	0.4%	94	-4.0%	-930	-
当社株主帰属 四半期純利益	0.4%	105	-2.6%	-600	-
1株当たり当社株主帰属 四半期純利益		21.10円		-122.80円	-143.90円
為替: 米ドル		101円		95円*	-6円
ユーロ		145円		127円*	-18円

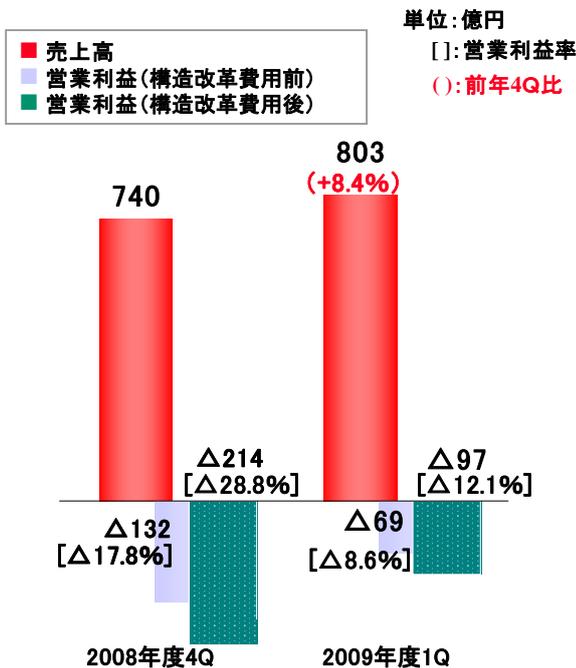
* 2Q以降、米ドル95円、ユーロ125円の前提 12

参考データ

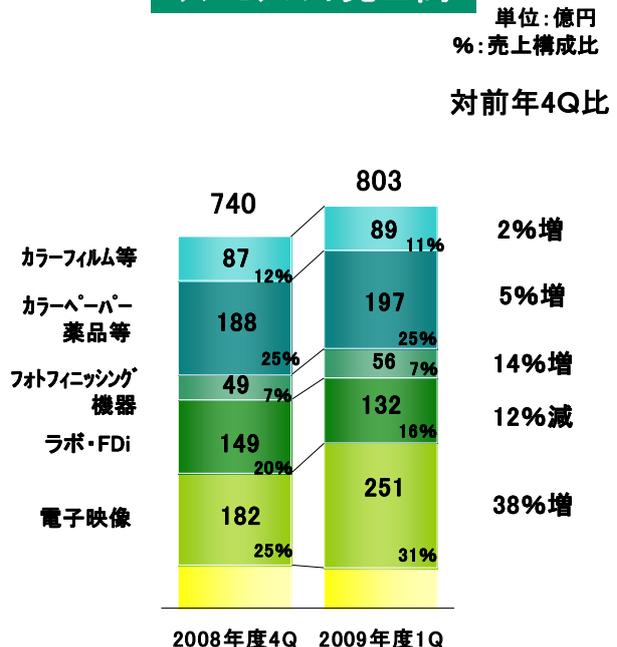
FUJIFILM

■ イメージング ソリューション 対前年4Q

売上高*・営業利益



サブセグメント売上高

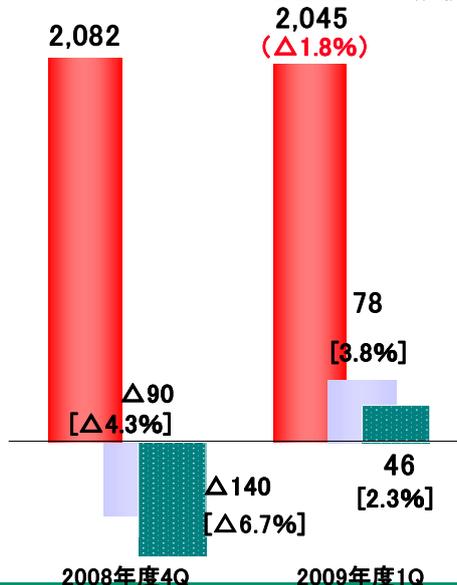


■ インフォメーション ソリューション 対前年4Q

売上高*・営業利益

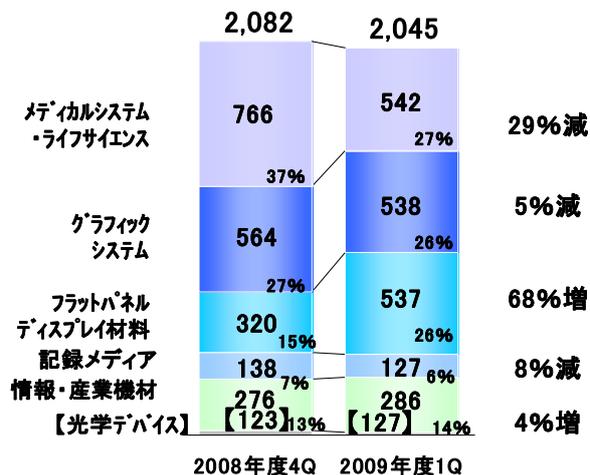
■ 売上高
 ■ 営業利益(構造改革費用前)
 ■ 営業利益(構造改革費用後)

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年4Q比



サブセグメント売上高

単位: 億円
 %: 売上構成比
 対前年4Q比

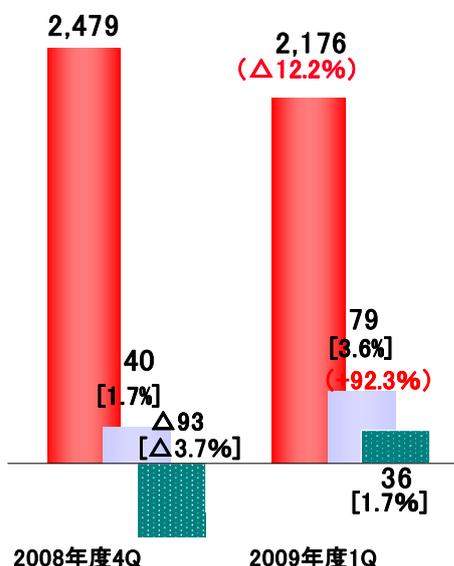


■ ドキュメント ソリューション 対前年4Q

売上高*・営業利益

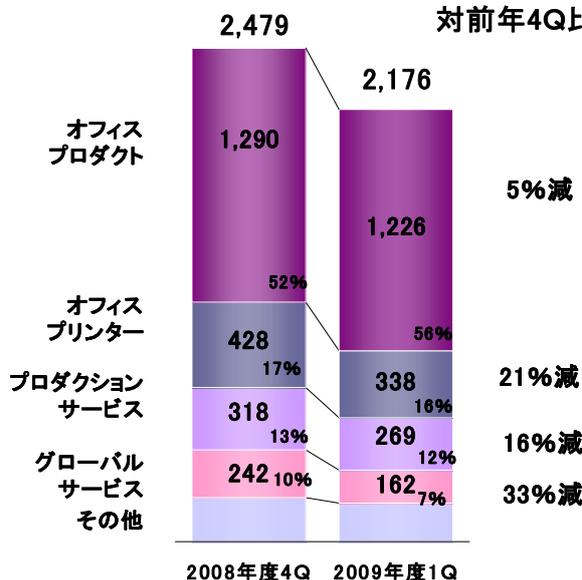
■ 売上高
 ■ 営業利益(構造改革費用前)
 ■ 営業利益(構造改革費用後)

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年4Q比



サブセグメント売上高

単位: 億円
 %: 売上構成比
 対前年4Q比



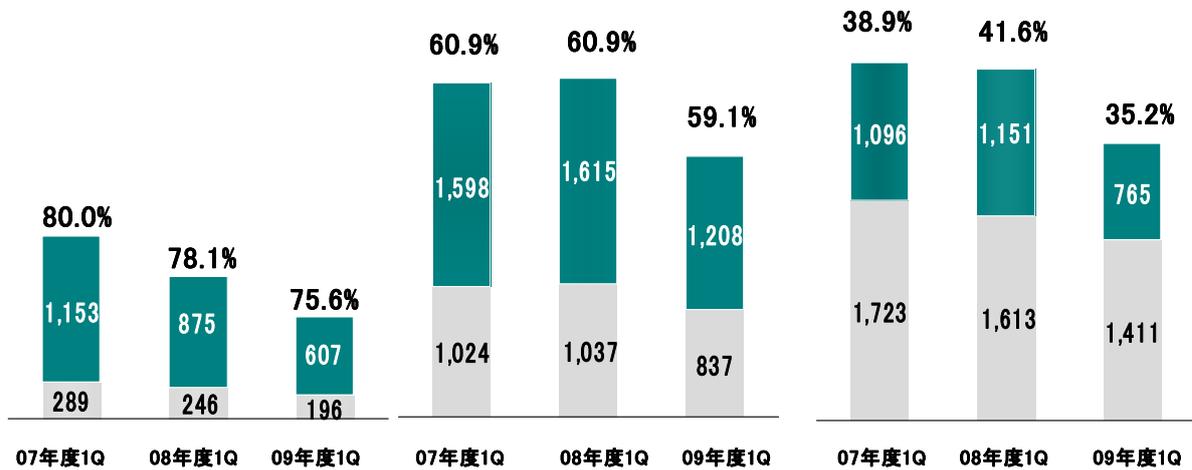
■ 海外売上高

イメージング

インフォメーション

ドキュメント

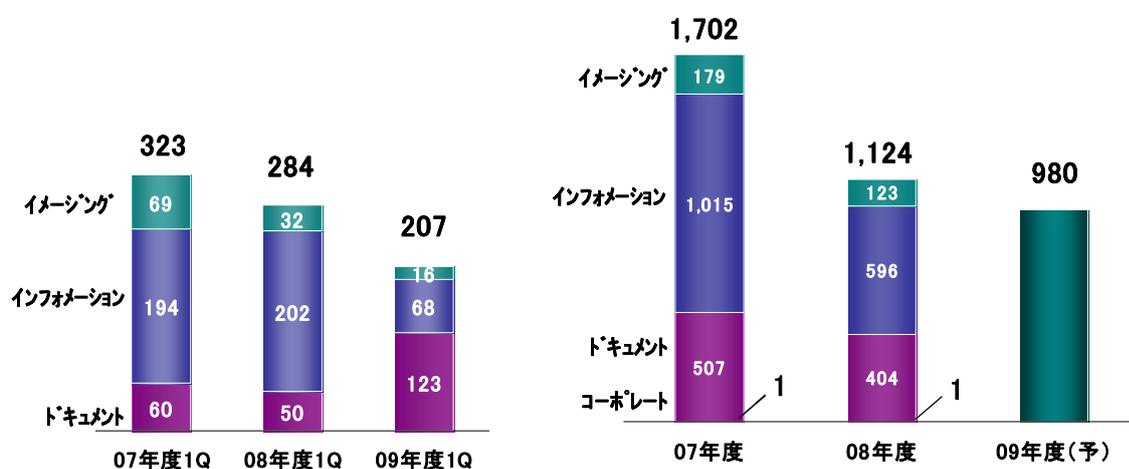
■ 海外売上高、構成比%
■ 国内売上高



■ 有形固定資産の設備投資額*

第1四半期

年度



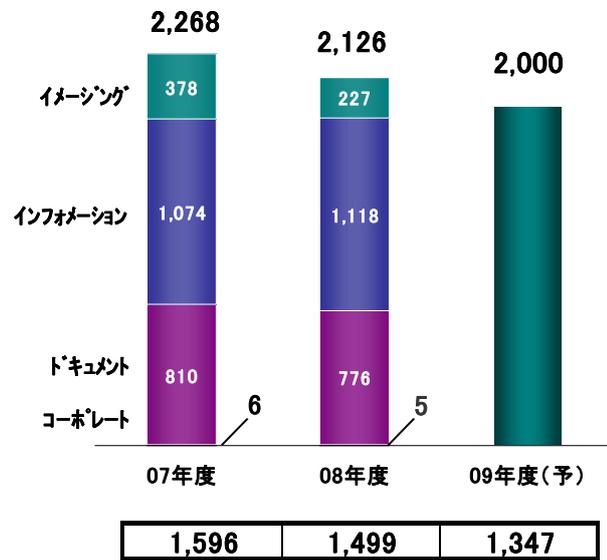
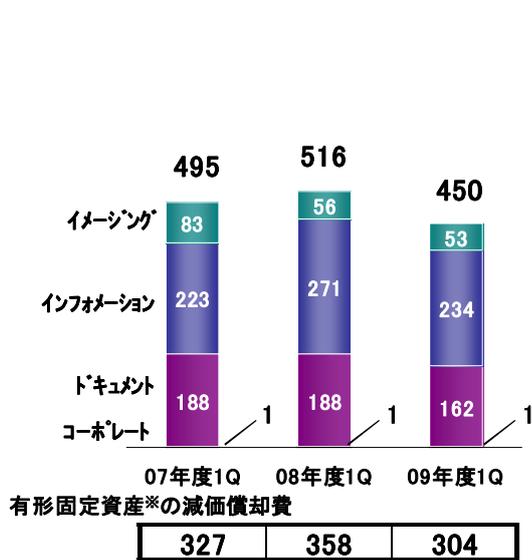
*ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

■ 減価償却費

(単位: 億円)

第1四半期

年度



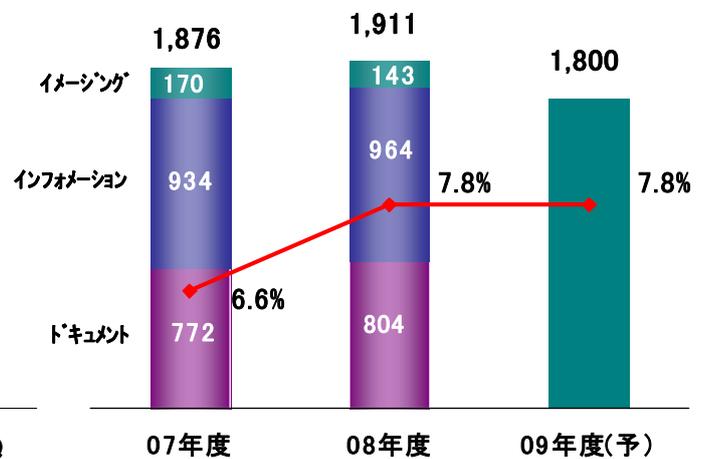
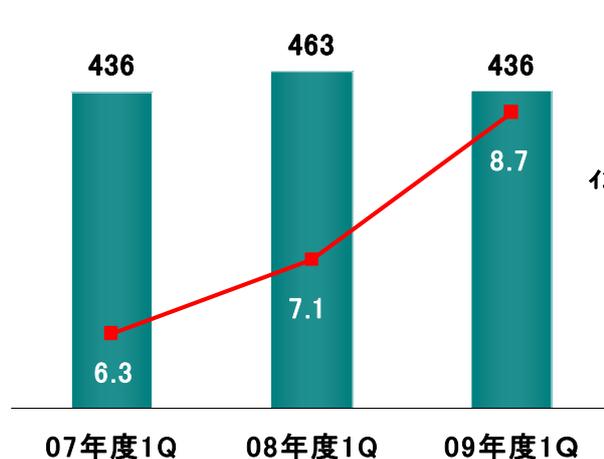
※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

(単位: 億円)

第1四半期

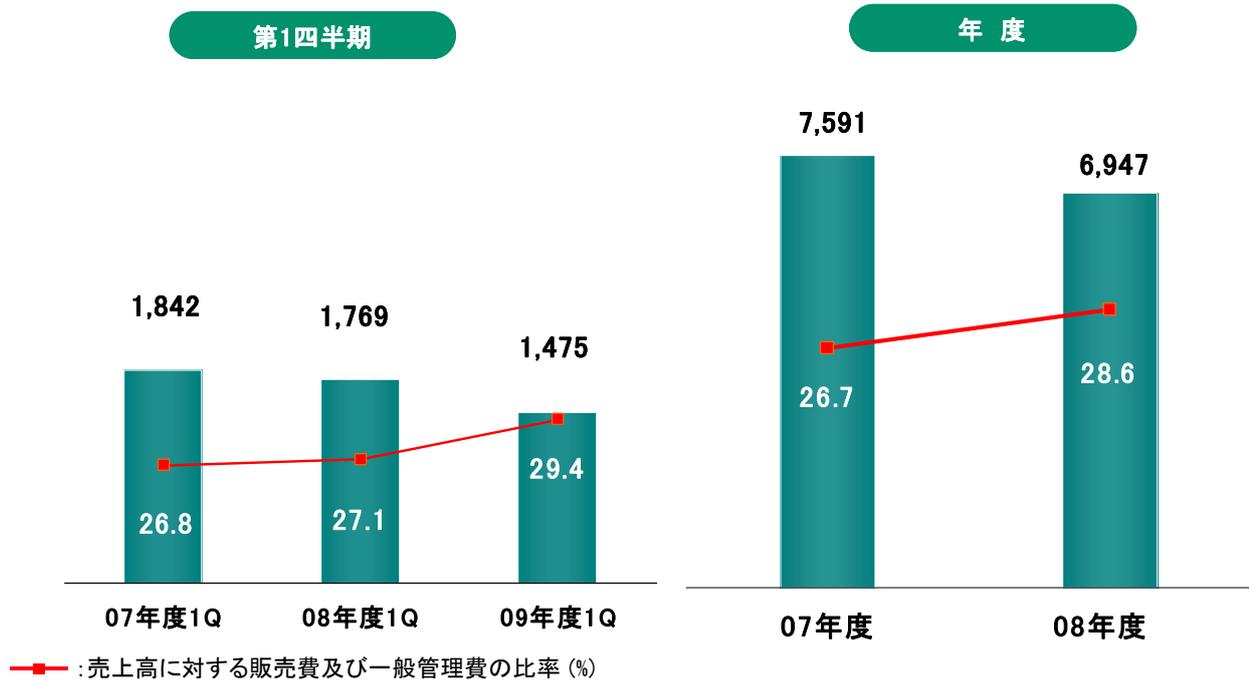
年度



—■— : 売上高に対する研究開発費の比率 (%)

■ 販売費及び一般管理費

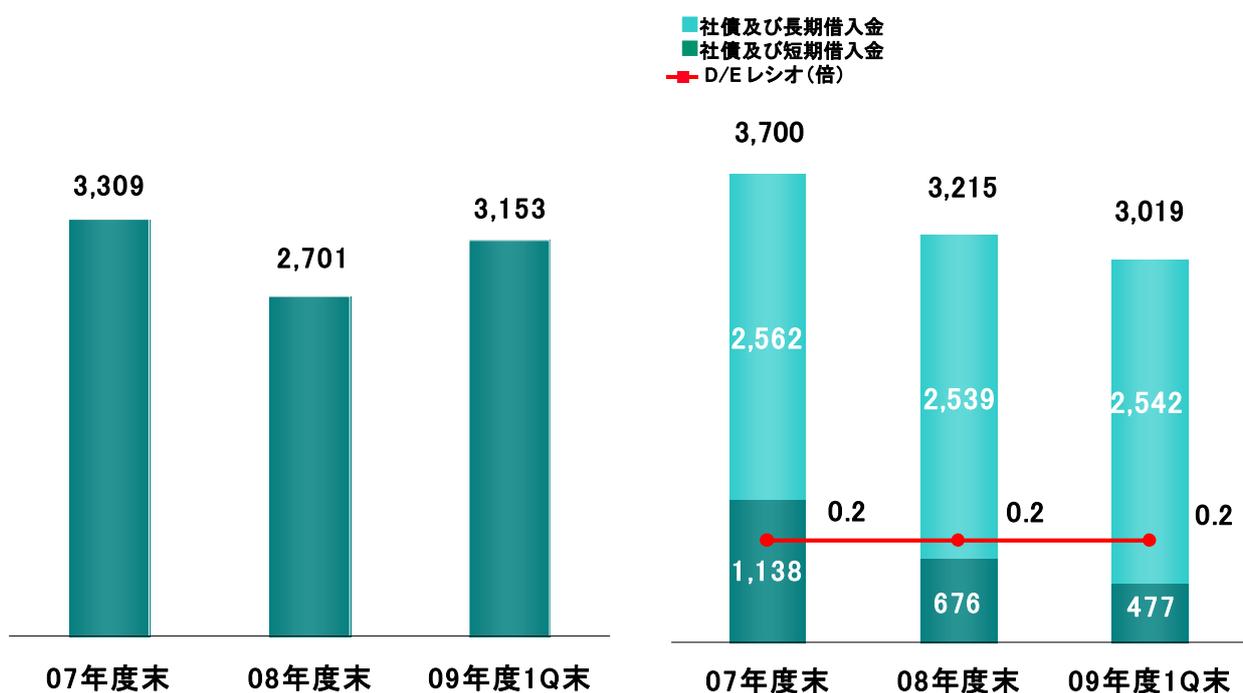
(単位:億円)



■ 現金及び現金同等物

■ 有利子負債

(単位:億円)

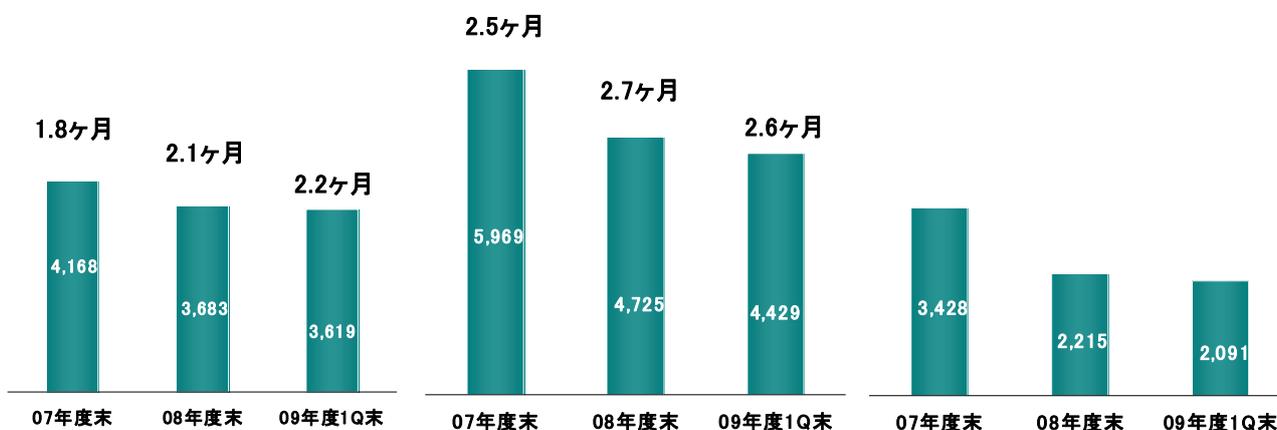


■ 棚卸資産

■ 受取債権

■ 支払債務

(単位:億円)
(保有月数)



■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-3262 細粒	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					経口*
T-614	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射**
		米国	[進捗バー]					経口/注射
		欧州	[進捗バー]					
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	[進捗バー]					注射***
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国	[進捗バー]					経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本	[進捗バー]					経口
		海外	[進捗バー]					
T-705	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
		米国	[進捗バー]					
T-1106	抗ウイルス剤	日本	[進捗バー]					経口
T-2307	抗真菌剤	日本	[進捗バー]					注射

* 錠剤は「オゼックス錠」として発売

** 経口剤は「ジェニナック錠」として発売

*** 発売中の「パシル点滴静注液」の用量追加

※前回(2009年4月30日)公表時からの変更点: T-3762 P IIIから2009年6月に申請

■ 為替、人員

(単位:円)

● 為替

	2008年度					2009年度
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q
米ドル	104	108	97	94	101	97
ユーロ	163	162	128	124	145	133

* 為替感応度(年間) (1円の変動につき)

	営業利益
米ドル	9億円
ユーロ	7億円

● 人員

	2008.6末	2008.9末	2008.12末	2009.3末	2009.6末
連結	78,765	78,228	78,203	76,252	75,929

1,951人減

323人減

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティオブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>